

ドネツク市民はウクライナによる砲撃の恐怖に絶えずさらされている

現地リポーターがテロの詳細を報告

<https://www.rt.com/russia/576044-donetsk-civilians-ukrainian-shelling/>

RT/ Eva Bartlett (カナダ人独立ジャーナリスト)

May 11, 2023



4月28日のドネツク中央へのウクライナによる激しい砲撃は、8歳の少女とその祖母を含む、9人の市民を殺し、少なくとも16人以上を負傷させた。犠牲者たちは、彼らの乗っていたミニバスに砲弾が当たったとき、生きたまま焼き殺された。

この攻撃はまた、ある大きな病院、アパート群、家屋、公園、通りまでも、狙って破壊した。すべてが市民の住む住宅地であり、軍事施設ではない。

JCCC(ウクライナ戦争犯罪の共同モニターと協力センター)のドネツク人民共和国(DPR)代表オフィスによると、キエフ軍は、爆発力の高い破砕ミサイルを使ったが、これは「スロヴァキアで作られ、NATO諸国によってウクライナに移送された」ものである。同じ日のより早い砲撃については、JCCCは、アメリカ製のHIMARS(高性能ロケット砲)が用いられ、「市の中心地である住宅街だけが標的にされた」と強調した。

私は、ドネツクの外でArtyomovsk(別名バフムート)からきた亡命者をインタビューしていた。そのとき、2度の激しい砲撃が起こり、1回目はちょうど午前11時だった。戻った私はある悲劇的な場面を見ることになった。焼け落ちたバスがまだ燻っており、乗客たち

のいくつかの焦げた体が溶けて、車体に付着していた。この恐ろしい出来事は、悲しいかな一度限りのものではなかった。

別の所では、市の作業員たちがすでに残骸を撤去しつつあり、道路の損傷を受けた箇所を舗装しなおしていた。私はこのようなウクライナの砲撃を何度も見ており、今年1月1日もその一つである。この時はウクライナは、市の中央へ25発のロケット砲を撃ち込んだ。同様に2022年7月には、ウクライナの商店街への砲撃で、4人の市民が殺され、その2人は車に乗っていて炎に焼かれた。私が1時間後に、現場に到着すると、作業員たちが道路の破壊された箇所を修繕していた。

この共和国の「トラウマ・センター病院」への被害は、手早く復旧したが、Telegramのビデオは、砲撃を見せた後、直ちに壁の一つに開けられた大きな穴を映した。この問題の部屋には、ドネツクで唯一のMRIの機械があったことは確かだった。

バフムートには、ウクライナの攻撃によって数え切れぬ回数、標的にされた、中央ドネツク通りがあり、その破壊の様子がはっきり見えた。爆発に巻き込まれた2台の車があり、あるアパート住人は、壊された窓やドアに板を打ち付けており、よく聞かれる、ガラスや破片を掃く高い音が聞こえた。住宅地域で、その日最初に標的となったのは、ある家の裏の巨大な噴火口で、そこには別の家の壁と屋根が、ロケットの破片と混じりあっていた。

ウクライナ戦争犯罪の更なる1年

2022年4月、Kirovsky地区の大きなマーケットへの攻撃で、私は市民の死者が5人、負傷者が23人いたことを知っていた。私はその後の状況を調査しようと出かけたのだが、予期しなかったものをそこに見た。近くの小路に5人の死者のうちの2人が、まだ放置されて横たわっていた。この砲撃は、正午少し前のことで、この地域では忙しい時間だ。こんな時間帯に爆撃するのは陰險な戦術で、それは少しでも多くの市民が、障害を負ったり死んだりすることを狙っているのだ。

同じ地域を2度、3度と攻撃するのもまた、ウクライナ軍の常套手段である。ある昨年インタビューで、DPR緊急事態省の消防と救護隊のトップSergey Nekaは、私にこう話した、「我々の部隊が現場に到着すると、ウクライナが砲撃を始めるのだ。多くの装備がそれによって破損し破壊されている。」

ドネツクのKievsky地区の緊急事態省チーフAndrey Levchenkoもまた、ウクライナの攻撃についてこう言った——「彼らは我々が到着するまで、30分待っているのだ。我々が到着し人々の介護を始めると、砲撃が再び始まる。彼らはまたしばらく待つ。我々の仲間は

シェルターに隠れるが、そこから出て消火に当たり、救護を始めると、彼らの砲撃がまた始まるのだ。」

私は、6月半ば、都市中心部へのウクライナの砲撃が特に激しかった1日の間、このドネツクにいた。そこで少なくとも5人の市民が死んだ。DPR政府はこう報告した——「2時間間に、ほとんど300のMLRS（多連発ロケット）と通常爆弾が撃ち込まれた。」一発のGrad（多連装ロケット砲）が産科病院に命中し、屋根を突き抜けた。

翌月、ウクライナは、国際的に禁止されたpetal mine（空中散布式の対人地雷）を含むロケット砲撃を行った。中央ドネツクの街路でも、西部・北部地区でも、他の諸都市でも、これを踏んだ者は、誰でもグロテスクに重傷を負うが、必ずしも殺されはしないように目論まれていて、そこは発見されにくい地雷でいっぱいだった。これらの地雷は今日に至るまで新しい犠牲者を要求し続けている。そういう事情について私が書いた、最後の日までに、104人の市民が障害者となり、そこには14歳の少年もいる。3人が傷のために死んでいる。それ以来、犠牲者の数は112人に上った。

8月には、ドネツク中心部へのウクライナの激しい砲撃が、私が十数名の他のジャーナリストやカメラマンと共に滞在していたホテルの、すぐ隣を襲った。ホテルの外にいた1人の女性と1人の子どもを含め、6人の市民がその日、殺された。この女性は有能なバレリーナで、ロシアで勉強するために、近く出発する予定だった。そして彼女の祖母と一緒に、彼女のバレエの先生——世界的に有名だった元バレリーナ——もその日、一緒に死んだ。

9月にあった、3度続いた5日間の、ウクライナの都市中心への砲撃によって、26人の市民が殺された（報告の詳細は省略）。その2日後には、16人の市民が殺され、彼らの遺体は見分けもつかず、道路に飛び散った。また3日後には、ウクライナは中央市場近くを攻撃し、6人の市民が死んだ（同）。

その後11月と12月の、ドネツクやその周辺都市への私の何度かの訪問で、私は、ドネツクと、北方のGorlovska居住地の市民領域への（HIMARSを使った）更なるウクライナの砲撃の、後日物語をフィルムに収めた。11月7日のドネツク中心部への砲撃は、私のインタビューした若い母親の、よちよち歩きの子を危うく死なせるところだった。幸いにも、最初のロケット砲撃を聞いた後、彼女はこの息子とトイレに駆け込んだ。帰ったとき彼女は、彼のベッドに散弾の跡を見出した。

11月12日のGorlovska砲撃は、美しい歴史的な文化的建物を傷つけ、その屋根の一部と、内部の劇場ホールを破壊した。そのセンターの所長によると、それはドネツク地区の最上

の映画劇場の1つであった。彼は HIMARS は非常に精密な兵器で、この攻撃は偶然によるものではないと言った。

砲撃は続く

4月16日のイースター・ミサの行われた早朝、ウクライナ軍は、ドネツク中央部の「聖なる変容」大聖堂の近くへ、20発のロケットを発射した、とフランスのジャーナリスト Christelle Neant は報告し、1人の市民が殺され、7人が負傷したと明言した。砲撃は大聖堂のすぐ裏にある中央マーケットにまで広がった。その一週間前、4月7日には、そのマーケットへの別の攻撃があり、1人の市民が死に、13人が負傷し、市場そのものがかなりの損傷を受けた。

ウクライナは、ドネツクの西と北地区の砲撃を継続し、数日前、死傷者が出ている。4月23日には、被害の激しい西ドネツク地区のペトロフスキーへの攻撃で、1人が死に、5人以上が負傷した。その同じ日、ドネツク北東部の村で、ロケットが30台の2人の女性を殺した。セキュリティ・カメラの映像は、この女性たちが防御しようとした瞬間を示している。彼らを殺した弾薬は、彼らが重なって伏した、その側に当たった。

数日後、別の都市の亡命者をインタビューする途中、私は、あの女性たちの殺された小さな村を通りかかった。それは私が10回以上も車で通った道路だった。静かで落ち着いた、重なる山々のある風光明媚な地域で、きれいな川が流れ、美しい教会がある。それはどんな戦線からも遠く離れている。これら2人の女性殺しは、もう一つのウクライナ戦争犯罪だった。

ここの人々は絶えることなく、ウクライナによる砲撃、あるいはその脅威によるテロに晒されている。それはキエフが、2014年にドンバスでその戦争を始めて以来、ずっと続いている。

[訳者 Greatchain 注]

これは経験豊富な、カナダ人女性独立ジャーナリストによる、綿密で正確な、ウクライナの現地報告である。文字通り足を使って調査したもので、女性らしい几帳面な報告が、資料として貴重な価値を与えている。

ウクライナの与える恐ろしさは、それが**テロ**であることである。テロは戦争と同じものではない。それは人間の弱点を利用した、心理作戦の一つと言えるだろう。そのことがこの報告からよくわかる。ここに「**陰險な**」insidious という言葉が使われている。これが最適の言葉であろう。彼らは**良心も名誉の感覚**も持たない。どんなことをしても、人間として恥ずかしいとは思わない。彼らは**サイコパス**という精神異常者である。すなわち他人の痛みを感じることができない。そして何より悪いことに、ひどく歪んだ優越感を持っている。

これが、ウクライナ大統領ゼレンスキーと、彼が率いる一派の総合的な心理分析と考えると差し支えないだろう。それは先日紹介した、ウクライナで起こった「オデッサの虐殺」によく現れている。この異常な犯罪者たちは、多数の人々（ロシア人）を建物に閉じ込めて、生きのまま焼くことに何の抵抗も感じなかった。彼らはそれを衝動でやったのではなく、綿密に計画して行った。それは普通の人にはできないことである。しかしゼレンスキー一派にはそれができる。

それがこの報告書によく描かれている。これがテロというもので、それは何か利益を狙うものではない。たとえば、イエメンなどで報告されてことだが、田舎のごく小さな村で、結婚式や葬式を行っていたりすると、彼らはそれを狙って爆撃する。子供が何人か遊んでいてもそれを狙う。これは何の利益にもならない。悪のための悪である。

これはゼレンスキー一派だけのものではない。それはアメリカのもの、すなわちバイデン政権一派、民主党一派、さらには Deep State とか、グローバリスト陰謀団と言われる、明かに正常ではない、すべての者たちに共通した精神構造からくるものである。

奇しくもそれは、今（5/15）入ったばかりの Sputnik International 記事に、こういうタイトルで載っている：――

「**瓜二つ：キエフとワシントンは、ロシアや中国を脅迫するのにテロ戦術を使っている**」 <https://sputnikglobe.com/20230514/peas-in-a-pod-kiev--washington-resort-to-terror-tactics-to-threaten-russia-china-1110345037.html>

「ウクライナの NATO-ロシア代理戦争は、アメリカとその従僕たるキエフによる、破壊とテロリズムに満ち溢れている。今、ワシントンでは、これら同じ戦術を、台湾の中国に対しても適用しようと思っている人たちがいるようだ。」……

我々日本人が、少なくとも誰かの「従僕」でないなら、あらゆる偏見を棄てて、ここで言われていることを、事の本質から正しく理解しなければならないだろう。